

## 令和3年度 学校経営計画書

学校番号	34	学校名	静岡県立静岡高等学校定時制	校長名	小関 雅司
------	----	-----	---------------	-----	-------

## 1 目指す学校像

## (1) 教育目標

校訓 「印高（高きを仰ぐ）」

実践目標 「われわれは勉強を本分とする。われわれは人に迷惑をかけない。  
われわれは自主的に行動する。われわれは勤労を愛する。

教育目標 校訓、実践目標のもとに、勉学に励み、社会性や協調性、望ましい職業観や勤労観を身につけた生徒を育成する。

## (2) 目標具現化の柱

ア 生徒の実態を踏まえ、一人一人に応じたあたたかみのある教育活動を推進する。

イ 基礎的・基本的な学力の定着と、それらを活用できる能力を育成する。

ウ 授業や学校行事などの教育活動を通して、自己肯定感・自己有用感を高める。

エ 望ましい職業観・勤労観を育成し、進路実現を図る。

オ 生徒の心身の健康や安全に留意した学習環境の整備に努める。

カ 「働き方改革」の推進と業務改善を進め、働きやすい環境を整える。

## 2 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	学校・保護者・社会が協力して、生徒を育てる環境を作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な情報交換会を実施し、教職員が生徒の情報を共有する。</li> <li>年間7回の面談（うち3回は三者面談）などにより、保護者との関係を密にする。</li> <li>定時制だよりやHPにより、学校の様子を保護者等に伝える。</li> <li>生徒の働く企業（アルバイト先等）を訪問し、情報の交換・共有を行う。</li> <li>日頃から生徒に対しての声かけを意識的に行う。</li> <li>通級指導や学習支援を活用し一人一人に応じた支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員が生徒個々の情報を把握することで、指導の足並みを揃える。</li> <li>生徒との二者面談は100%、保護者との三者面談は90%以上実施する。</li> <li>家庭における生徒と保護者の会話が増加する。</li> <li>生徒情報の共有が計られ、より良い連携が図られる。</li> <li>話しやすい、相談しやすい雰囲気と感じる生徒数が増加する。</li> <li>生徒、保護者が通級指導や学習支援を活用する。</li> </ul>	全職員

イ	<p>わかりやすい授業の展開により、基礎学力の定着を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数集団、T・T 授業、個別指導等の工夫により、生徒のニーズに対応した指導を行う。</li> <li>・個々の目標を掲げて年間5回の漢字コンクールを実施し、漢字能力の伸長を図る。</li> <li>・「高校生のための学びの基礎診断」の測定ツール及び学校設定科目「印高」の時間を活用し、基礎学力の定着を図り、指導の検証、改善に結びつける。</li> <li>・「総合的な探究の時間」を通して、探究活動（探究の過程）を充実させる。</li> <li>・生徒の実態を踏まえ、アクティブラーニングの視点と観点別評価に対応した授業改善を推進し、生徒が主体的に取り組む仕掛けを実践する。</li> <li>・生活に即した身近な課題を選んで教材を作成するとともに、ICT機器を活用し、生徒の興味・関心を引き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容を理解することで、学ぶことの楽しさを感じ、あきらめない姿勢を身につける。授業がわかると回答する生徒の人数を70%以上にする。</li> <li>・全員が2回以上は合格する。</li> <li>・年度当初にくらべて、基礎学力の向上があったと実感できる生徒を80%以上にする。</li> <li>・自らが課題を設定し、情報を整理し、考えをまとめ、発表できるようにする。また、物事に対する視野を広げる。</li> <li>・生徒の学習意欲が向上し、主体的に授業に参加する場面が増える。</li> <li>・年2回の授業評価で、生徒の授業への関心度の高まりが確認できる。</li> </ul>	<p>教務課 授業改善担当 ICT担当 (全職員)</p>
ウ	<p>言葉を大切にする姿勢と自分の行動に責任を持つ姿勢を育み、社会性を醸成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や言葉を大切に、場に応じた適切な言葉遣いによるコミュニケーションの指導を推進する。</li> <li>・給食の時間を利用して、生徒同士や生徒と職員の交流を図る。</li> <li>・講演会や生徒集会において、情報モラル講座や主権者教育講座を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業、学校行事、集会などを通じて、場に応じた適切な言葉を使える生徒が増える。</li> <li>・コミュニケーションを通して、良好な人間関係を築くことができる。</li> <li>・スマホ等の正しい使用法や主権者としての意識が高まる。</li> </ul>	<p>生徒課 人権担当 (全職員)</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行、映画鑑賞会、予餞会（ボーリング大会）等を通して、社会的マナーを育成する。</li> <li>・体育大会、生徒会行事、生徒生活体験発表大会等の異学年交流の機会等、生徒一人一人が活躍する場を設定する。</li> <li>・1年生において、ソーシャルスキルトレーニング講座を年3回実施する。</li> <li>・「自己目標シート」を活用し、行動目標を設定することで、学校生活の質の向上を図る。</li> <li>・部活動への参加を呼び掛ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場に応じた態度やマナーを学校生活、社会生活で活用できる。</li> <li>・学校行事の意義を理解し自分の役割を認識して、主体的に行事を運営することで、自己肯定感・自己有用感を高める。</li> <li>・生徒が互いの意見や行動を認めるとともに、自分の意見を他者に伝え、責任をもった行動ができるようになる。</li> <li>・自分の生活を振り返り、見通しを立てることで成長を実感し、次への目標を明確にできるようにする。</li> <li>・日頃の活動や大会等の参加を通して、目標に向かって努力する態度と基礎的实践力を身につける。</li> </ul>	
エ	<p>年次ごとの体系的なキャリア教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路のしおり」を活用して、段階的に職業観、勤労観を育成する。</li> <li>・進路目標を見据えた学校生活に関する振り返りを各学期に実施し、進路意識の向上を図る。</li> <li>・年間2回、外部機関と連携した進路学習日、進路講演会を実施し、の充実を図る。</li> <li>・1年生のハローワーク登録を実施するとともにジョブステーションなど、外部機関との連携を密にする。</li> <li>・職業体験を推進し、在学中の就労を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年において、進路目標が明確な生徒数が増加する。</li> <li>・進路意識の向上とともに、希望進路の実現率 100%を達成する。</li> <li>・自己理解を深め、進路実現に向けた行動を取ることのできる生徒数が増加する。</li> <li>・全学年のハローワーク等外部機関への登録 80%以上となる。</li> <li>・就職希望者のアルバイトによる就労率 80%以上となる。</li> </ul>	<p>進路担当 教務課 (全職員)</p>

オ	生徒・教職員の心身の健康の保持、増進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室、グッドマナー教室を実施し、安全意識の啓発を図る。</li> <li>防災訓練、KYT（危険予知トレーニング）等の防災行事を充実させる。</li> <li>警察署、学校薬剤師を講師とする薬学講座を実施する。</li> <li>生徒相談体制（養護教諭による新入生面談、年7回の面談機会）の充実を図る。</li> <li>各自の生活を確立し、欠席、遅刻日数を減少させる。</li> <li>必要に応じて早期に外部関係機関（SC、SSW、児童相談所等）との連携や支援体制サポート事業を活用し対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒及び教員の交通事故0件を達成する。</li> <li>校内外における地震、火災等の際の避難方法を生徒・職員が完全に理解する。</li> <li>薬物や飲酒、喫煙など身体的影響に関する理解率が向上する。</li> <li>いじめや体罰が起こりにくい、許さない環境にすることで、いじめの早期発見に努め、いじめによる生徒指導件数0件を達成する。</li> <li>心身の健康を保持することで欠席、遅刻日数を減少させる。</li> <li>発達段階や偏り、成育歴などの多様性に応じた指導・支援の充実により、早期対応・早期解決を図る。</li> </ul>	<p>教育相談</p> <p>交通担当</p> <p>防災担当</p> <p>養護教諭 (全職員)</p>
カ	業務改善を進め、職員が働きやすい環境への改革を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事別のねらいを整理し、取組への動機付けを明確にする。行事ごとに振り返り及び効果の検証を行い、見直しに役立てる。</li> <li>職員間の会話を増やし、風通しの良い環境をつくる。</li> <li>管理職による積極的な休暇取得を呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の行事のねらいが重複するものについては、実施方法を変更もしくは廃止し、行事の精選を図る。</li> <li>働きやすい、意欲的に働ける環境である。</li> <li>業務に支障がない場合は、積極的に休暇を取得する。</li> </ul>	<p>管理職 (全職員)</p>

○「育てたい資質・能力」について

- ① 教育目標、校訓、実践目標、教育目標を基に、全職員で検討する。
- ② 活用 教職員で共有、学習指導、授業改善、総合的な探究の時間、学校行事、部活動  
グランドデザイン、教職員人事評価制度における自己目標など

○社会人として社会（職場）で活躍するための資質・能力を育成する。

- ・基礎的・基本的な学力、コミュニケーション能力、
- ・責任感、主体性、協調性